

伯刺西爾時報

NOTÍCIAS DO BRAZIL
Publicado semanalmente
Rua Conselheiro Furtado
No. 89
S. Paulo, Brazil
Proprietário e editor
Seisaku Kuroishi
Assignaturas
por Anno 10\$000
Semestre 5\$500
Mez 1\$000
Semana \$800

嘘は罪惡の原

古來我が國では「嘘も方便」と云ふ諺が行はるゝ爲めか、日頃交際の上にも商賣の上にも、かなり多くの虚言が使用せられて居るのであるが、交道が開け外人と接觸するもの頻繁になつた二十世紀の今日では、此の「嘘」は私共にとつて、如何に大きな想像も及ばぬ處である。

然るに因襲の久しき「嘘」と云ふ此の秘訣の如く心得てゐる者の少なくないのは遺憾である、私は北米に居た際に、屢々米人から「日本人は能く働くが、どうも嘘言を吐くので困なかつたのである。

歐米人は一般に虚言を吐かぬが故に、歐米人との元則となつてゐる、故に歐米人に對して、其れは虚言だとか、虚言だらうとか云ふならば、先方は紳士である限りは必ず絶交を宣言することを聞くたゞごとに私共の急所を突く。尚も尚は我が同胞の裡に「嘘」は世渡り

する損害であり、恥辱であるかは實に想像も及ばぬ處である。

然るに因襲の久しき「嘘」は私共にとって、如何に大きな損害である。

「虎が來た、虎が來た」と叫んだ小供の悪習が、一朝一夕に之を頭腦によじき去ることの困難なるせいか、今も尚は我が同胞の裡に「嘘」は世渡り

する。當サンパウロ州に在住する日本人は棉花の有望なるを認め、近來之は栽培に從事し、良種に良種を選んで、其の中眞物の虎に出逢つて救助された。亞刺比亞人は亞弗利加を征服した後、亞弗利加に棉花栽培を奨励した、之れ恐らく錦葵花植物は棉より絲を取り、布を織り出し、

振向ても見なかつた爲め、終に其の子供は虎に喰い殺された」と云ふ話を引合に出すまでもなく、「嘘」は其の吐く人の信用を害し、人格を傷け、

生命まで危くするものである。然らば斯の如き分り易き且つ大切道理を、なぜ日本人は諒解し得ずして、「嘘も方便」といふ様な間違ひが生れる。されば虎は其の正體に就き、今ふこごとなり、其の結果虚言は惡事ではない。又先方の損害要求に對しては、尚も尚は居たかと言へば、之を勧くら前提出して必要的處から、

約束の重んすべきを考へ、若しく約束不能に於ては、爰に手違ひを生じ且つ相手方に對し自分の信用を害するものではない、又先方の損害要求に對しては商業取引の致命傷となることもあるからである。

附金は返済するからと云つて済むものではない、故に約束する前には於ても棉花耕作は洵に有望である。

如何に依り、其の種類を選擇せねば如何にして之を以て僧侶の衣服を造つた栽培の鼻祖と謂ふべきであらう。歐

人來棉花は埃及が最も抵抗性強き良質で、日本人の約束不履行は仲買人の目を惹き、其の中眞物の虎に出逢つて救助取つて非常な打撃であると共に、德義問題として黙過しがたいことである。

棉花に及ばない、現今サンパウロ州に於ける棉花耕作の本場はソロカバナ鐵道沿線一帶の地方にして其の種類はアップランドなるも、此種はソ

レーンバーラー、マラニヨン、ペルナロカバナ沿線よりノロエスティ沿線の棉花產出額甚大なるも、綿質に臻りては到底埃及より羊毛の如きものを採り織り、麻ヤ、バルセローナ、フェスの諸處に於ては棉花の發達に従い織物工場は殆ど無いたる、三つに裂けたる果實よ

り、羊毛の如きものを採り織り、麻ヤ、バルセローナ、フェスの諸處に於ては棉花の發達に従い織物工場は殆ど無いたる、三つに裂けたる果實よ

●西伯利を我物顔に △哈爾賓には早々 獨逸商人の飛

●西伯利を我物語に

日本近信 獨逸商人の飛躍

△哈爾賓には早くも日本製より格安の薬が現れた

我對露貿易の大打撃

露國の輸入貿易十三億七千五百萬留の内日本からの輸出は僅に四百萬留で列國中第十七位、支那に比べても其の二十分の一にも達しない程度な情態であつたが戰争により歐羅巴から商品輸入の

▲杜絕の結果 大正四年には軍需品を除いて一躍九千萬圓の輸出となり大正五年には益増進して十一月に至つては其の月一箇月だけでも千七百萬圓といふ最高記録を作るに至つた

斯くの如きは我が商權を露國に伸張すべき千載一遇の好機なので政府初め日露協會、官民の有志等専ら力瘤を入れ出すと間もなく革命政府の輸入禁止令となり西伯利鐵道

▲貨車不足 となり外國爲替禁止となり加へて留相場の大暴落となり昨年末には驚く可し十二月輸出額二百九十九萬圓となつて了つた然し是は露國國內の形勢上已むを得ぬ事として我が官民の對露貿易論者は只管戰後の大活躍を期待して居たのであるが獨軍の兎手か萬一極東にまで伸びて来る事になると日露貿易は實際全滅の外はない又外務省通商局の一員の談に依ると

▲哈爾賓には早や日本製のものより格安な獨逸の藥種類が入つて來たといふ報道さへ來て居る所を見るに獨逸が既に極東に向け經濟的の活動を開始したと推される一體戰前の露國對外貿易では獨逸は他の諸外國に比し段違ひの優越な地位を占めて居たもので千九百十三年露國への輸入額を見ると獨逸は六億五千英國は一億七千米國は七千九百萬といふ順になつて居る此原因は獨逸人は血族的にも露國に接近して居る

△天谷博士の變な笑ひ

三田光一は二月廿五日午後六時から公演會を開いた先づ來會者中の前代獨逸が戰勝の餘勢を以てドシドシ入り込んで来て自分に都合の好い協定案を述べて統濟的活動を始めた日には日本對露貿易の前途も亦危い哉と云はねばならぬ

三田光一失敗る

△天谷博士の變な笑ひ

三田光一は二月廿五日午後六時から公演會を開いた先づ來會者中の前代議士江間俊一君等が達摩や番傘ひ思ひに書いて此三田は直に六枚のヒルムに之を念射すべく瞑目し十分許りにて念射終れりと告げたので各新聞社の寫眞班は其のヒルムを持つて現像室へ入つたスルト神谷といふ男が發言して「現像してゐる間に此衛生會の前を通る三田行の電車番號を透視して

▽貴はふちやないか」と云ふ事になり三田は透視に取かり「七時四十五分から同五十分迄の五分間に於て六五、一四七の二つの電車が通つた」と云つたが實際は此五分間に於ては一、二、二、一號一、二、三、二號一、二、九〇號、二、二〇五號の四車が通つた。この美事に失敗した、それから念射のヒルムを公開したところ一枚も寫つて居ないので愈々

▽味噌をつけた今度はヒルムでなく乾板に直接念射する事になり例にては一、二、二、一號一、二、三、二號一、二、九〇號、二、二〇五號の四車が出来た三田瞑目少し、乾板を公開すれば誰に似て非なる天神様然たるもののが映つた此時三田曰く「此畫を書いた人は天滿宮の信仰家でせう」と而

三田光一失敗る

△天谷博士の變な笑

●労働階級の一面

労働階級の一面

●博多築港職工

● 博多築港職工

西班牙の王様に 書を送れる一少女

叔父さんを救ひたい一念か
西班牙の王様に
書を送れる一少女

子に寄せて、子供の事ですから字は下手、又字の綴り方も充分にわからませんのを考へ考へしながら辛うじて一通の書面を書きました。うのヅエ子さんの書面かうでした。

西班牙國王陛下様

何卒ウエストフライラのフエスター
ドオルフ野戦場に捕虜となつて居る私の伯父のキアブリエルクリノンさんに就いて御心配下さい、叔父さんは病氣なのであります、新聞で見ますと病氣の佛國人捕虜がいました、私と母と、そして叔父の爲めに陛下に御願ひしきれると出てをります、同じ新聞には、陛下は親切な方だと書いてあります、私は此の厭な戦争が終つたら私は自分で陛下の處へ参つてた目にかかるて御禮申上ます。

ジエ子さんは斯ういふ手紙を書きました、ろして之を封筒に入れて西班牙マドリット市西班牙國王陛下様に投げ入れました、ろして其後はいつも母様の御手傳をして居ました、ジエ子さんは殆んど國王へ手紙を出したが事を持れ、ただ時々無断で使用した金の四十錢の事を何時か母様に話されねばならぬと考へたが、ジエ子の夫一人の郵便配達夫が来ました、それで母様は若しや此の四ヶ月も便りの無い親身の人が手紙が來たのである夕方一人の郵便配達夫が来ました、その夕方一人の郵便配達夫が来ました、ジエ子さんの叔父さんからではありませんでした、うの中に「ジエ子文房出立金を救いた。西班牙佛蘭トイで

「何うしたのだらう！」と母様の不審がつて居ますので、ジエ子さんには直ぐ思ひ當つて、ジエ子さんは恥げに顔を紅め、次には怖ろしくなつて青ざめて泣き出した。そして泣きじやくりし乍ら數週間前に西班牙国王に手紙を出した事を母様に語りました。

母は之を聞いて叔母さんと目を合せ、兩人は共にジエ子さんに目を注いで無言の中に兩人はジエ子さんを抱いて廣間の椅子に連れ行き三人車座なつて手紙を開きました。處が紙のは極上等王冠の打出しの紋章が捺され、西班牙國王御手づから署名の書面でありました。

娘よ、九歳の子供には、たゞへ王様と雖も人々が思ふ事は何でも出来るといふもので無い事は解る。我が若し之が出来るものならた前の伯父さんは、今もう既にた前の家に居らるゝ筈である。

然し娘よ、私は私自身で獨逸へ書面を書きました、書記官に書かせたので無い私が手づから書きました。恰度私が最も親しい友達に手紙を書く時と同じ様に、私はた前の書に感動させられ心を奪はれたので、自分で手紙書く氣になりました。それで私はた前の伯父さんが自分の事の様に獨逸へ此事を願つたから。娘よ、私はた前が私を信じて呉れたのを喜びます。人は皆名々信じない、國王すらも信任せぬ者がある、私はた前が厭な戦ひが終つたならばドリットへ来ると言つた約束を忘れませぬ、戦ひが終つて少ししてからでも伯父さんと母さんと伯母さんどうしだてに前さんと來て下さい。

アルフォンソ

錦魚の話

世間過つた六七百尾を川に放してしまつて錦魚屋に笑はれた事がある。

ことになるかも知れぬ。僕は知つて
いる青年にも心安い者には
いつも娘賣るよ^{つまひ}といふて
の努力反省に持つて好結果を得べき
に關する處で注意を促して置いたが
これは通譯、舊移民、家長、女各自

ちらの端から向ふの端までは何十里
といふ長い行列が出来た譯でした。
間もなく競走の日が来ました。龜

今度の龜も、最初の龜だとばかり思つて

●古本買入並に御用品買入可申候
尋常小學教科書壹年級より六年迄

錦魚も愛玩より一步
まれば其の飼育に人知

田舎旅（其の七）

る、實隊男一匹、金出して妻買ふ
とは意久地なき骨頂だ。

はのりへ出發點へ行つて、待つてをりました。さうするごと、やがて

一 れや／＼」と、ひ／＼くりして、
たひゆうひゆうと十町ばかり駆け出だしました。

○書寫小學教科書全編、不列寧全集、
全部一編四十四冊四十針送料二針○漢和
模範英和辭典送料共十一針○漢和辭
典送料共九針○西洋料理研究書各種



優美な錦魚も愛玩より一步進んで道樂となれば其の飼育に人知れぬ苦心がある。普通一番子の産卵は日本では四月下旬で親魚に「アヒ」が乗つて来る。雄が雌を追ひ廻す、時を計つて其の雌雄を引き分けで二週間ばかり置き、藻を入れた他の槽に一緒に放す。雌は直ちに卵を藻にひりつけ、一回の産卵數は数百個から千個位であるが生み終ると同時に親魚を別にせぬと大事な卵を食れてしまう恐がある。卵は普通産後一週間目に解る、解つた四五日目頃から始鶏卵の黄白だけを網袋に包んで水の中に振り出して食餌とするが一週間後になれば微塵子と稱する溝などに生く虹鰐の糸のやうなものを與へ又四週間後位には其の上の糸虹鰐を食べさせるのである。此の時注意すべきは水で孵化つてから二週間目に初めて取換へ、それから一週間目位に取換へればよい。餌は午前十時と午後の二時と四時の三回に分けて與る。一番子は時候が好いから生育は樂であるけれども二番子三番子になるごとに下旬から六月中旬にかけて一年中の氣候調節である、梅雨になると故に其の飼育には周到なる注意を要するのである。然し上等の種類になると親魚が多少弱るので二番子だけに留めて三番子を産ませぬ。錦魚の孵化りたては一様に真黒なもので、それが日数を経るに従ひ黒色は變じて赤になり白になり班入となるが色彩變化の期は飼育者の最も苦心をなすときで餌の加減水の取換方と経験から得た所の知識を要する此の加減を過れば緋の色が消ざることあり姿勢を崩させることもあつて千金の子を忽ち駄金錦にして丁ふことが往々ある。私は度々卵を孵化させたが第一回の時産れた子が皆真黒なので溝から取つて來た藻に着てゐた目高の卵がかへつたものと思ひ生れて一

女に注意したとする「ハア」と答へるが、旅行者の言仲々耳に入らない、和装で除草に出かけんとする強固度に難し、敢て本文を呈して切に通譯、舊移民、家長諸君の努力を乞ふ。

騒けツくら

或とこそ、いに上の村の村がありました。體の大きな、足の早い豹は、いつも龜ののろいのを馬鹿にして、じういろんな悪口を言つていぢめをしておりました。或日、龜はのろくごと豹の村へ用達しに行きました。すると豹は、「ない／＼龜さん、一つ二人で騒けつくらをしようぢやないか」、と前さんは随分足が早いようだから、ここによると己を負かすかも知れないよ。どうだ、やつて見ないか」、と、もう一人によると、己を負かすかも知れないよ。て、龜をからかひました。豹の小供たちは龜の顔を見て、みんなで手を叩いてげら／＼笑ひました。龜は恥かしくて耻かしくて、ころ／＼ころ／＼な顔になつて、ころ／＼とお家へ歸りました。

併し、あんまり悔しいものですから、どうかして一度豹をうんざへこましてやりたいと思ひまして、毎日一生けんめいに、考へました。

うのうちに龜はいゝことを思ひつきました。それで早速豹のところへ、使ひを出して、いつ／＼どこ／＼の街道で駆けつくらをしませうと言ひました。

ヒヨウは大笑ひをして

「よろしい、やらう」と言ひました。やがて、龜はすぐくの中の龜をつくり、駆け集めて、豹と駆けつくらをする道筋に一匹づゝつくりました。千匹といふ龜が、それだけの間をこいては、隠れてゐるのですから、こ

「ううが出て来てまして
うい龜さん、本當に私と驅けつ
するつもりかい」と言ひながら
やうに人を馬鹿にして、鼻の先
ひました。
龜は大威張りで
「うん餘計な口を利かないで、早
く度をなさい。どんな人たつて私
かづいたらねらいものだ」と言ひま
しました。
高もなく二人は「一、二、三、う
」と言つて駆け出しました。
ヨウは
内へ龜のくせに、己に追つ附かれ
なら追つ附いて見ろ」と思ひなが
ひゆう／＼ひゆう／＼と、瞬く
に十丁ばかり飛んで行きました。
「は、こゝまで走れば龜はさて
寸のことでは追つ附いては來ら
まいと思ひながら、立ち止まつて
見ました。すると、案の定、龜
すつと／＼向うの方に、蟻のや
に小さくなつて、のろ／＼駆けて
るのが見にました。
ヨウは「あは／＼」と一人で大
をしながら悠々／＼と一休み
をりますと、むき側の草の中に
てゐた一ぱん目の龜が、のろり
往来へ出て來て
らツ、追ひ抜くとヒヨウの
をしながら悠々／＼と一休み
をりますと、むき側の草の中に
てゐた一ぱん目の龜が、のろり
ますと、龜はいつの間にかちき後
來てあるのですから
や／＼これは驚いた」と言ひな
またひゅう／＼と十町ば
飛んで行きました。もして、も
れなら大丈夫だらうと思つて一
もうしかけるごとたほかの龜
ひよいこちき後へ出て来て
うら追ひぬくが」と言ひながら
うで驅け出しました。ヒヨウは

○せんべい焼型
血の道樂中將湯寶母散及諸薬自下品切、日本より來る九月頃入荷の豫定に御座候
○大工用ヤスリ小七百、中八百、大八百、○土佐鉛ヤスリ一鉢○ノミ種輪金大小〇剃刀砥石七鉢〇大村砥石十鉢(目方約五キロ)〇本山青砥石子二鉢(二キロ半)〇タ、キ六分ノメ三鉢〇金剛砂鉢五百レイス、同ハ分三鉢〇金剛砂一袋五百〇其の他大工道具類各種〇大算盤八鉢〇ボケット入うろばん各種〇トカシくし〇スキくし〇かぶくし〇口紅〇白粉〇日本蘭揚子〇蘭磨粉
○御注意
御注文は弊店より物品發送の節御幸達に間違なき御手の耕地名、停車場、線路等御明記被下度願上候
御注文は物品の價格及送料金を加へ是非共御送金被成下度願上候御送金無くして往々御注文の向き有之候も御指定の物品は御入金の上に非らざれば一切御送品仕り申さず候間何卒御諒承被下度願上候

